響き

No. 102

〒590-0959
日本キリスト教団　堺川尻教会
堺市堺区大町西三丁一-十三
☎〇七二-二三二一-三五三一

聖霊よ来てください

使徒言行録二章一～十二節

塚本一正牧師

「五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。」

（使徒言行録二章一節）

主の十字架と復活から五十日目＝ペンテコステに「一同が一つになって集まっていると」聖霊が降られました。聖霊に満たされた弟子たちは主イエス・キリストの福音を世の人々に語り始めました。教会の誕生です。この日以来今日まで、教会は聖霊の導きによって歩み続けて来たのです。

私たち堺川尻教会が、最初の弟子たちと同じように「一つになって集まり」聖霊を求める時、今も聖霊は来てくださいます。

「一つになる」とはどういうことでしょうか。それは私たちが皆同じであるという喜びに立つことです。それは、私たちが皆同じく脆い存在であり、いずれは皆死ぬ者だということです。その意味で、私たちは皆仲間であり旅の道連れであるという喜びです。

人は多くの場合、自分が他の人と違うことに喜びを見出します。自分が人より優れている、人より健康、人より外見がよい…。しかしこうした喜びは束の間のものでしかありません。私たちの本当の喜びは、皆脆さと死において同じであるということにこそあると思います。

主イエスがこの私たちの仲間になってくださったからです。神の子でありながら人となってこの世に生まれてくださり、私たちと同じ脆さと死をご自分のものとしてくださいました。そしてその弱さの中で、ひたすら天の父なる神に信頼なさったのです。

この主イエスと共に、私たちの教会も、脆さ弱さにおいて一同が一つになり、神の生きた力なる聖霊を求めるのです。「神よ聖霊を送ってください。聖霊よ来てください」と心を合わせて祈るのです。その時聖霊は降られるのです。

最初のペンテコステに弟子たちに起こったのはまさにこれでした。主イエスの十二人の弟子たちは、元々はなかなか一つになれない人たちでした。かつて彼らは、自分たちの中で誰が一番偉いかと議論したことがありました。ヤコブとヨハネの兄弟は、自分たち兄弟を一番高い地位につけてくれるよう主に頼みました。主の十字架前夜にはペトロが「みんながあなたにつまずいても、わたしは決してつまずきません」と言いました。彼らは皆自分が他の十一人とは違うということに喜びを見出そうとする者たちだったのです。

しかし彼らは全員挫折しました。全員十字架の主を見捨てて逃げました。ペトロは主を三度否認しました。彼らは仲間だったイスカリオテのユダの死も目の当たりにしたのです。彼らは、自分たちが皆同じ弱く罪深い存在であり、いずれは死ぬ者であることを、深く深く思い知らされたのです。

復活された主イエスはこの弟子たちをお見捨てになりませんでした。四十日にわたって彼らと過ごしてくださり、聖霊を待つように言われ、昇天の際こう約束してくださったのです。「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。…地の果てに至るまでわたしの証人となる」と。

弟子たちはこの約束を信じ、一つになって聖霊を待ったのです。その彼らに約束通り聖霊は降られ、神の力を注いでくださいました。

私たちの教会も、皆弱い罪人であり主の救いと助けがなければ生きられないということにおいて一つになり、祈ります。「聖霊よ来てください。」その時聖霊は降られます。それが主の約束だからです。